

# 東京シンフォニエッタ

第58回定期演奏会

近隣への眼差し中国の作曲家たち

Regard sur un pays voisin, les compositeurs chinois

王心阳：清梦压星河

Xinyang WANG: Plodding into A Starlit Dream  
(2024) 日本初演

张彤芬：鹅掌楸

Tongfen ZHANG: Liriodendron  
(2024) 日本初演

馬方欣：白鹿

Fangxin MA: The deer in the dream  
(2025) 世界初演

郭元：被拉伸的歌

Yuan GUO: The Stretched Song  
(2024) 日本初演

温德青：拉尼亚凯亚

Deqing WEN: Laniakea  
(2025) 日本初演

指揮 板倉康明

Cond. Yasuaki ITAKURA

演奏 東京シンフォニエッタ

TOKYO SINFONIETTA

2025.  
**12.11** [Thu]

19:00開演(18:30開場)

東京文化会館 小ホール

全席自由 一般 ¥4,000 学生 ¥2,000(税込)

主催 一般社団法人東京シンフォニエッタ

助成 芸術文化振興基金

お問い合わせ・マネジメント  
(株)AMATI 03-3560-3010  
東京都港区赤坂 1-14-5-S103  
<https://www.amati-tokyo.com>



|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 代表・音楽監督  | 板倉康明                           |
| フルート     | 斎藤和志<br>斎藤光晴                   |
| オーボエ     | 梅枝理恵<br>辻 功<br>渡辺康之            |
| クラリネット   | 川越あさみ<br>佐藤和歌子<br>西澤春代         |
| ファゴット    | 河府有紀<br>長 哲也                   |
| ホルン      | 有馬純晴<br>岸上 穰<br>中島大之           |
| トランペット   | 坂井俊博<br>高橋 敦                   |
| トロンボーン   | 西岡 基                           |
| パーカッション  | 石崎陽子<br>松倉利之<br>和田光世           |
| ピアノ      | 東京シンフォニエッタ代表・音楽監督<br>板倉康明      |
| ハープ      | 木村茉莉                           |
| ヴァイオリン   | 梅原真希子<br>海和伸子<br>山本千鶴<br>吉成とも子 |
| ヴィオラ     | 百武由紀<br>吉田 篤                   |
| チェロ      | 宇田川元子<br>高麗正史<br>花崎 薫          |
| コントラバス   | 那須野直裕<br>長谷川信久<br>吉田 秀         |
| エレクトロニクス | 有馬純寿                           |
| 団友       | 渡辺 功<br>守山ひかる                  |
| 副代表      | 斎藤和志                           |
| 事務局      | 多田逸左久                          |

東京シンフォニエッタ第58回定期演奏会は「近隣への眼差し、中国の作曲家たち」と題して中国人作曲家作品のみでプログラムを構成する。上海音楽院教授で世界的に名声のある、温徳青。彼に推薦された生徒、張彤芬の作品。いずれも日本初演となる。四川音楽院教授、郭元作品の日本初演。同じく教え子の馬方欣作品の世界初演を行い、現代中国の二人の重要な作曲家とその影響を受けた次世代作曲家の作品を並置してプログラムの軸を構成した。温はスイス、郭は東京藝術大学でそれぞれ学んでいる。自らの文化に異国での経験を加えた作品は興味深いものがある。同時に2020年武満賞を受賞した王心阳作品も日本初演として演奏する。付け加えるとすると、いうまでもないが「音楽」という言葉は中国が起源である。歴史的に西洋音楽の日本への輸入は大陸経由では無いものの、音楽を含めた多くの文化は中国に源があることを改めて考え、同じ漢字文化圏に属する優れた作曲家達の作品を隣人として紹介したいと企画した。西欧の視点では中国も日本も同じ「東アジア文化圏」に属している。そこから考えると私たち日本の演奏家は近隣への眼差し、音楽的な面においてその動向に注意を払うのは当然と考える。同時に、同じ漢字文化圏の作曲家が自分の持つ背景からどのように創作して行くかを聞き取ることが私たちの創作活動にも直接関係する。東京シンフォニエッタにとっても初の試みとなるこの演奏会によって中国作品が日本で知られ、音楽的な面においてさまざまな交流の端緒となることを願っている。

<https://sinfonietta.tokyo/>



2025年12月11日[木]  
19:00開演(18:30開場)  
東京文化会館 小ホール

全席自由(税込)  
一般 ¥4,000 学生 ¥2,000

◎チケット予約

東京文化会館チケットサービス  
03-5685-0650

イープラス……………<https://eplus.jp> (PC&携帯)  
チケットぴあ……………<https://t.pia.jp> (PC&携帯)  
Pコード[306・915]  
ローソンチケット………<https://l-tike.com/> (PC&携帯)  
Lコード[34329]

次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお買い求め下さい。  
❶やむを得ない事情により、曲目等が変更になる場合がございます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットのキャンセル・変更等はできません。❷いかなる場合もチケットの再発行はできません。紛失等には十分ご注意ください。❸演奏中は入場できません。❹未就学児の同伴はご遠慮下さい。また、就学児以上のお子様もご入場には1人1枚のチケットが必要です。❺全席指定席です。指定の座席にてご鑑賞ください。❻場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。❼ネットオークション等によるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。❽他のお客様の迷惑となる場合、主催者の判断でご退場いただく場合がございます。

温徳青 Deqing WEN

1958年福建省生まれ。スイス国籍を有する華人作曲家。上海音楽学院作曲科教授。中国、スイス、フランス、デンマーク、アメリカ、ベルギー、ドイツ、イスラエル、タイ、韓国にて、自作作品による演奏会およびマスタークラスを多数開催。作品はスイス音楽出版社より刊行され、録音はスタディヴァリウス(ミラノ)、スイス音楽家協会出版社、ナクソス、テロス・ミュージック、上海音楽出版社などからリリースされている。また、「上海現代音楽週間」「杭州現代音楽祭」を創設し、国際的に著名な現代音楽祭として発展させた。



郭元 Yuan GUO

郭元は、2002年、更なる作曲の研鑽のために日本に渡り、東京芸術大学で作曲博士号を取得する。現在は四川音楽学院作曲学科の教授を務め、作曲学科の主任を兼任している。彼の作品は交響楽、室内楽、合唱曲、民族楽器音楽、ソロなど多岐にわたる。また、国際的及び国内の作曲コンクールで何度も優勝を獲得した。2000年以降、主な受賞歴は以下の通り：2004年ポーランドの「Witold Lutoslawski 賞」国際作曲コンクール入賞、第11回と第15回東京国際室内楽作曲コンクール佳作賞、2014年ポーランドの「第2回Krzysztof Penderecki 国際作曲コンクール」決勝賞、2014年第九回中国音楽「金钟賞」優秀作品賞、2017年中国香港中乐团「中樂無疆界・国際作曲大会」最優秀編曲賞など。また、彼の作品は国際現代音楽協会(ISCM) 2013年スロバキア・ウィーン、ISCM 2017年カナダ・バンクーバー、ISCM 2020年ニュージーランド、ISCM 2025年ポルトガル「World New Music Days」「世界音楽の日々」等の音楽祭に選ばれた。郭氏の音楽は音の動きを重視し、一つの音響が生じる前後及び一瞬の爆発と消滅の状態を追求する。彼は線と音色を用いて作品を構築し、より簡約な表現方法を求めている。



王心阳 Xinyang WANG

シンヤン・ワン博士は国際的に活躍する作曲家であり、その作品に対してはこれまで武満徹作曲賞第1位(2020)、創設100年目にあたる年で授与されたグッゲンハイム・フェローシップ(2025)など、誉れ高い賞が与えられてきた。ワンはまた、カンヌ国際映画祭でオペラが上演された初の作曲家でもある。四川音楽学院(学士)、マンハッタン音楽学校(修士)、ピッツバーグ大学(作曲博士)を卒業・修了したワンは、中国の伝統的な美学と西洋の古典的な厳格さを総合する、独自の音楽語法を展開させてきた。その作品は現代クラシック音楽の新たな可能性を探究しているが、他方で世界全体へ訴えかける力も保持しており、異文化をまたぐその独自の視点は、今日の音楽的対話を豊かなものにしていく。伝統同士を橋渡しし、芸術の境界を押し広げる作品によって注目されるワンは、革新的なコラボレーションと境界横断的な作品群を通して、世界の現代音楽界への貢献を続けている。



张彤芬 Tongfen ZHANG

上海音楽学院作曲専攻博士後期課程在籍。温徳青(ウェン・ドゥーチン)教授に師事し、マレーシア人作曲家チョン・キーヨン教授の指導も受ける。2023年には英国ロイヤル・バーミンガム音楽院(Royal Birmingham Conservatoire)へ交換留学し、ルーク・ベッドフォード教授及びエドモンド・ベネット教授の下で研鑽を積む。作品は中国、ドイツ、チェコ、ロシア、マレーシア、アイスランド、英国等で上演され、ニュージーランド・トリオ、モスクワ現代音楽アンサンブル、オーケストラ・オブ・ザ・スワン(英国)、アンサンブル・ノマド(日本)、室内楽団スタジオC等と協働。主な受賞歴：2016年ピアノ独奏『海に堕ちるオリオン座』(原題：划落在海上的猎户座)で第5回中国-ASEAN音楽週作曲コンクール1位；2017年室内楽『汝の瞳が我が心に映るとき』(原題：When Thy eyes upon My heart)が第2回ユンギ・バー・バーン国際作曲賞2位(1位該当なし)を受賞、ベルリン・フィルハーモニーにて初演；2019年第9回チャイコフスキー国際若手作曲家講習会(ロシア)選出；2022年上海音楽学院「音才助飛」優秀学生支援プログラム選抜；2024年室内オーケストラ作品『鵲掌楸』(リリオデンドロン)をオーケストラ・オブ・ザ・スワン(英国)が録音；2025年第24回中国上海国際藝術節「若手芸術家支援プログラム」選出。



馬方欣 Fangxin MA

馬方欣は四川音楽学院の大学院を卒業し、郭元教授の指導の下で作曲を学んだ。2019年に第五期「躬耕書院—陳其鋼音樂ワークショップ」に選ばれ、2021年に大型オリジナルの民族歌劇「大江の船頭」の合唱部分の創作に参加した。2022年に第二回川陝鄂音楽学院「優秀計画」—大学院生専門技能展演活動で展演賞を受賞し、2023年に第12回中国—ASEAN音楽週及び「花山杯」作曲コンクールで二等賞を受賞した。また、2023年『成都現代音楽祭』に「絳の歌」青年作曲家専場音楽会に参加し、作品「雪地上的最後の樹」を展演した。2024年に「川音杯」小型器楽コンクールで一等賞を獲得した。

